

こっこめ通信 03 2018

「駆除も観察も継続は力なり」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

天気予報でスギ花粉の飛散状況やサクラの開花予想が流れる季節になりました。島にある「カワヅザクラ」は、昨年秋に台風の影響で一度咲いてしまい、また咲くか不安でしたがきれいに咲いたようです。しかし島のサクラ「オシマザクラ」は、今年は1月・2月と日の平均気温が平年より寒いため開花は少し遅くなるかもしれません。日に日に膨らんできているので3月2週目には咲くでしょう。また、公園内にある「ソメイヨシノ」の標本木は寒さのおかげで蕾が大きいようにも感じます。こちらの開花は例年よりも早いでしょうか？

さて、今回は「ヤブツバキがヤバイ!」「カワラヒワは留鳥なのか?」についてのお話です。

ヤブツバキがヤバイ!

枝先が枯れ始めているヤブツバキの木が植物公園内でたくさん見つかりました。これは「チャノキホリマルハキバガ(*Casmara patrona*)」の幼虫の仕業です。

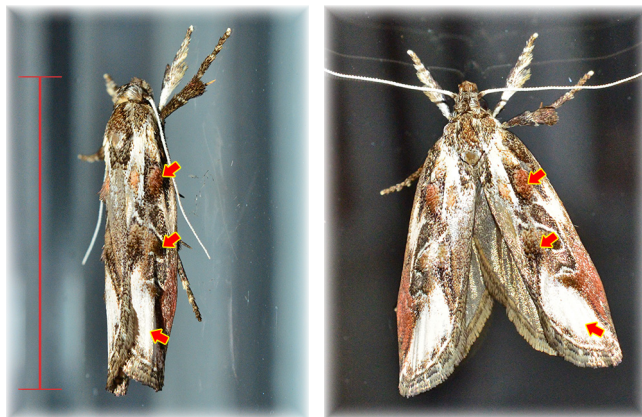
チャノキホリマルハキバガの幼虫は、ヤブツバキやチャノキの細い枝から太い枝へ穿孔しながら食べ進み、枝先を枯らしてしまう害虫として知られています。幼虫で越冬し、成虫は5月から6月に羽化します。成虫の大きさは左右の翅を広げると約40mmほど、閉じた状態の頭から翅の先までが約20mmほどです。前翅には鱗粉が隆起したコブが2箇所あり、外縁部の白斑が目立ちます。本州、四国、九州、沖縄島、宮古島、石垣島、西表島などに分布し、台湾や中国にもいるようです。

植物公園内で写真上段のような枝先の枯れたヤブツバキの枝を切ってみたところ、枝が太くなるにつれて穴は徐々に大きくなり、中に40mmほどの白い幼虫が入っていました(写真中段)。枯れたのはこの子の仕業です。

植物公園内では2016年から少しずつ枯れている枝が目立ち剪定はしていました。しかし、2017年の秋には広範囲に見られたので、今後の被害を食い止めるためにも枝の根元から剪定を行っています。枝や葉の少ないヤブツバキが多いですがご了承ください。

ヤブツバキは新芽がでてくる5月にはチャドクガという蛾の幼虫に葉を食べられてしまいます。この幼虫には毒もあるので、公園管理スタッフによる地道な作業で駆除しています。

害虫と言っているのは人間だけで、蛾たちは子孫を残すために必死なんですよ。駆除してごめんなさい!



「アカコッコ」は日本固有のヒタキ科(旧ツグミ科)の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

カワラヒワは留鳥なのか？

【留鳥（りゅうちょう）】とは、季節ごとの移動をせず、一年を通して同じ地域に留まる鳥のこと。

日本鳥類目録改訂第7版によるとカワラヒワは、カムチャツカやサハリンなどで繁殖し冬に日本に渡ってくる亜種オオカワラヒワ (*Chloris sinica kawarahiba*) と北海道から九州で繁殖する亜種カワラヒワ (*Chloris sinica minor*)、小笠原諸島で留鳥の亜種オガサワラカワラヒワ (*Chloris sinica kittitzi*) に分けられ、伊豆諸島では亜種カワラヒワが留鳥 (RB) と記載されています。

八丈島でカワラヒワを撮影・観察していると以下の様子が見られます。

- ①. 4月上旬に園地などで群れている (20~30羽)
- ②. 5月頃に林道などでさえざりが聞こえる
- ③. 6月下旬~8月初めに幼鳥(写真右)を確認している
- ④. 夏に5羽ほどの家族らしき集団が確認できる
- ⑤. 11月頃にアトリなどと園地などで群れている
- ⑥. 冬は林道などで数羽でいるところを見る (5~6羽)
- ⑦. 秋から春に見る個体は三列風切に白い部分が多い
- ⑧. 他の留鳥に比べ個体数が少ない



亜種カワラヒワ(幼鳥)

2016年06月24日



亜種オオカワラヒワ？

2013年02月01日



亜種カワラヒワ

2015年06月25日

以上のことから一年を通してほぼ観察できるため「**亜種カワラヒワが留鳥**」の可能性はあります。しかし気になるのが、⑤の秋に北から渡ってきたアトリと行動を共にしていること、⑦の秋から冬の個体に亜種オオカワラヒワの特徴といわれている三列風切の白い部分 (写真左上矢印) が多いこと。このことから亜種オオカワラヒワが渡ってきているのではないかと疑問を持っています。そこで「**留鳥として亜種カワラヒワがいて、冬鳥として亜種オオカワラヒワが渡ってくる**」という可能性があります。しかし個体数が冬場だけ増えているようにも思えないので、さらに「**春から秋に見られるのは夏鳥として繁殖のために渡ってくる亜種カワラヒワ、秋から春に見られるのは冬鳥として越冬しに來ている亜種オオカワラヒワ**」という可能性もあります。でも亜種カワラヒワが八丈島よりも南へ渡る必要があるのか？さらに疑問がでます。(個体数的にはこれがしっくりくる？)

結局は「**亜種カワラヒワが留鳥**」であり、三列風切の白い部分は繁殖でボロボロになった羽が冬羽に変わっているだけで、アトリとも食性が似ているというだけかもしれません。でも、納得できないのは、留鳥であるならば⑧の個体数が少ない原因がなにかあるのでしょうか？増えない理由は子育てがしにくい？何かに襲われる確率が高い？もしかして確認できていないだけで個体数は多い？疑問ばかりが残ってしまいます。

三つの可能性のうちどれかであることは間違いないので継続観察を続けていきたいと思います。



2011年02月19日



2014年04月19日



2009年11月24日



2008年07月10日

八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きもので季節を感じようという趣旨で、「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。毎回見られる植物がどのように変化していくか、また、どんな鳥や植物が見られるかも観察しています。今回は2月11日に行いました。

八丈植物公園季節調査（平成30年第2回）調査者：沖山、矢野、VC 菊池

NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態
草本			9	タブノキ	種子から発芽
1	アオノクマタケラン	実が残る	10	ヒサカキ	咲き始め
2	アシタバ	実	11	ホウライカズラ	実の虫こぶ
3	イワニガナ	花	12	ホルトノキ	実が残る
4	ウスベニニガナ	花と実	13	マサキ	実
5	ウラシマソウ	蕾	14	モチノキ	咲き始め
6	オオアレチノギク	花	15	ヤツデ	実
7	オオシマカンスゲ	花と実	シダ植物		
8	オニタビラコ	花	1	イシカグマ	
9	カタバミ	花	2	イノモトソウ	胞子葉が残る
10	コナスビ	花	3	オオイタチシダ	
11	コモチマンネングサ	紅葉	4	オオタニワタリ	
12	シマテンナンショウ	花	5	オニヤブソテツ	
13	スズメノカタビラ	花	6	カニクサ	
14	セイヨウタンポポ	実	7	タチクラマゴケ	紅葉
15	タネツケバナ	花と実	8	タチシノブ	栄養葉
16	ツワブキ	実	9	タマシダ	
17	ノジスミレの仲間	花	10	ナンカイイタチシダ	
18	ノミノフスマ	花	11	ノキシノブ	
19	ハナイバナ	花	12	ハチジョウカナワラビ	
20	フウトウカズラ	熟した実	13	ハチジョウシダ	
21	ヘクソカズラ	実が残る	14	ヒトツバ	
22	ムラサキカタバミ	花	15	ホシダ	
木本			16	マツザカシダ	
1	アオキ	熟した実と虫こぶ	17	マツバラン	
2	イタピカズラ	実	18	マメツタ	
3	イヌビワ	実	今回はシダ植物18種を含む、55種の植物を観察しました。越年草は、場所によって花を咲かせているものやロゼットの状態のものまで見られました。		
4	オオバヤシャブシ	実			
5	オオムラサキシキブ	冬芽			
6	ガクアジサイ	実			
7	キツタ	実			
8	タイミンタチバナ	咲き始め			

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、冬に渡ってくる「アトリ」にスポットを当ててみたいと思います。



アトリ

Fringilla montifringilla

アトリ科の鳥。日本には冬鳥として飛来します。

八丈島へは秋に少数が渡ってきて園地などで群れになり、左ページのカワラヒワと行動を共にすることもあります。そのまま島で冬を越す年もあり、その時は林道などで数羽で行動し、地面に落ちた種子などを食べています。年により渡ってくる数かなり違います。

2018 八丈ビジターセンター 3 プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島（神湊）の潮の満ち引きの時刻です。左側が満潮時刻、右側が干潮時刻です。また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
		 この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります		1	○ 2	3 ガイドウォーク 講演会 「発光生物の謎」
4 ガイドウォーク	5	啓蟄 6	7	8 11:00 23:09	9 05:54 11:34 23:46	10 ガイドウォーク 06:21 18:03
11 ガイドウォーク 植物公園 季節調査会	12	13	14	15	16	17 ガイドウォーク 05:32 17:13
18 ガイドウォーク	19	20	21 春分 ガイドウォーク	22	23	24 ガイドウォーク 八丈学講座 「春の植物観察会」
25 ガイドウォーク 特別行事 「植物公園でお花見」	26	27	28	29	30	31 ガイドウォーク 05:12 17:19

イベントプログラム

特別講演会

「発光生物の謎～光る生きものは何故光るのか～」

中部大学応用生物学部の大場裕一博士を講師に迎え、八丈島の発光生物のお話や最新の研究成果などを紹介していただきます。
3 / 3 (19:30～ 約1時間半)
小学生以上 (小学生は保護者同伴) ビジターセンターにて 参加費：無料 定員：55名

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！
3 / 11 (13:30～ 約1時間半)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 無料 定員：15名

八丈学講座

「春の植物観察会」

毎月行っている八丈学講座。今月は、和泉親水公園やホテル水路周辺で春を探します。
3 / 24 (13:30～ 約1時間半)
中学生以上 和泉親水公園駐車場集合・解散 参加費：50円 定員：15名

春の特別行事

「植物公園でお花見」

今年もオオシマザクラの下でクッキー＆お茶でお花見をしましょう！太鼓もあるよ！
3 / 25 (13:30～ 約1時間半) 植物公園サクラ広場 (日本の森) 集合・解散
小学生以上 (小学生は保護者同伴) 参加費：200円 定員：15名

ビデオプログラム

10:00～ 八丈・海・生きものたち

11:00～ おじゃりやれ 八丈島

14:00～ おじゃりやれ 八丈島

15:00～ おじゃりやれ 八丈島

16:00～ 八丈・海・生きものたち

上記以外での上映は予約にて可能です

東京都八丈ビジターセンター 2018.3.1 第202号

開館時間 9:00～16:45 年中無休 (入場無料)

〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888

編集後記

生きものを見ているといろいろな疑問が湧いてきます。今回はそんな疑問 (蛾が急に増える・鳥の渡り) を書いてみました。観察や記録だけでその疑問が解決されることは少なく、謎が深まるばかりです。言葉が通じれば直接聞いてみたいですね。(高)